

令和 6 年度 堀江小学校 関係者評価報告書

大阪市立堀江学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度も「安心・安全な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」について、学校は子どもたちのためにさまざまな取組を行っており、よくがんばっている。それぞれの目標に対する指標を概ね達成しており、この最終評価は妥当である。

2 年度目標ごとの評価

【安心・安全な教育の推進】

いじめに関しては、学期 1 回のいじめアンケートや日常の学年や学級担任の児童の見取りにより、児童の実態を把握し、児童や保護者への聞き取りを丁寧に行った。このことにより、重大ないじめ問題の未然防止につなげていった。また、Q-U 調査を実施し、その結果をもとに学級改善に取り組んだ。児童の欠席状況を把握し、週 3 日以上休む児童には、家庭状況の把握も行い、生活指導部を中心に学校全体で情報を共有し共通理解を図り、保護者や関係諸機関との連携、即応体制で臨み、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させた。

学校のきまりについて、児童の実態に応じて毎月の生活目標を決めることができた。また、学期に 1 回の生活強調週間を設け、生活安全委員会の児童が主体となった取組を実施することができた。一方で、学校生活のきまりについて、教職員で同じ指導ができるように、教職員全体で検討・見直しを行い、明確化していく必要がある。

SPS の取組としては、校内研修で防犯訓練やアレルギー対応研修を行った。また、地域各署や警察署と連携して防災や交通安全への意識を高める学習を行うことができた。避難訓練は回数を重ねるだけでなく、行方不明者やケガをした児童がいる等、想定を変化させることで、いろいろな場面での避難訓練を行うことができたことで、児童も教職員も臨機応変に対応する意識をもち、取り組むことができた。

道徳の交換授業を行うことで、学年の児童の様子を多数の目で確認することができ、児童理解や授業改善につなげることができた。道徳の授業のみでなく、朝の会や帰りの会でも自己肯定感を高めるために、児童が互いによいところを見つける機会を設けるなど工夫を行い、教育活動アンケート「自分には、よいところがある」では、肯定的に答える児童が 90%いた。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力の向上において、基礎基本を重視するために朝の学習時間を設けた。読書タイムや計算タイムなど、学年、学級の実態に応じて実施したが遅刻者などがある現状から安定的な実施には至らなかった。また、論理的な思考力の育成のためにプログラミング学習を各学年で実施したが、研修などを通じでさらに進展させたい。

全国学力・学習状況調査の結果から、全国平均と比較して国語科も算数科も高かつ

た。しかし、学習内容の定着に課題のある児童が約2割みられる。

校内研究においては、全学年で「個別最適な学び」「協働的な学び」へむけて、ICTを効果的に活用した授業を実施することができた。

理科学習では、中学年では、理科専科教員を中心に授業計画を立てたり、高学年では、教科担任制を取り入れたりし、指導の充実を図った。各単元で、実験観察を充実させることができた。次年度に向けて、さらによりよい環境を生み出すため、栽培計画や備品の整備をすすめる。

GlobalTimeを朝の時間にとられることなく、柔軟に時間を確保して取り組むことができた。次年度も、学年での共通理解や研修などを行う。

運動量確保のために、走る本数を増やす、鬼遊びを取り入れるといった活動を通して、指導の工夫を行った。しかしながら、時間割の都合上、合同で体育科学習を実施する時間が多く、場所の制限や用具などの不足があった。今後、運動しやすい環境を整え、低学年から系統性を考えて取り組む必要がある。

全国体力・運動能力調査の結果から、全国平均と比較すると男子は5種目、女子は3種目全国平均を上回った。一方で、投・走の種目に課題がみられた。

【学びを支える教育環境の充実】

<ICTの活用>

どの学年も電子黒板や一人一台端末を効果的に授業で活用することができた。プログラミングの学習についても充実したものにできるように研修を行う。9割以上の児童がICTを使った学習に対し「楽しい」「わかりやすい」「もっとしたい」などの肯定的な回答があり、児童が自分の考えをまとめて発表するのに活用できている。

<教職員の働き方改革>

学年内で業務を分担したり、スクールサポートスタッフを活用したりすることによって、余剰の時間を生み出し、教材研究や子どもとの時間、打ち合わせの時間等に有効活用できた。また、一人ひとりが効率的に仕事をするという意識を高めることができたことにより、今年度も本校における長時間勤務時間は大阪市平均より少なくなった。

3 今後の学校運営についての意見

- スマートフォンの使い方については、子どもたちにとっては生まれたときから身近にあったものなので、時間などで制限するのではなく、使い方を教えることが大切ではないか。
- 他国では、パソコンを主流にしていた教育から、再び紙での学習に戻ってきている。どちらも大切である。子どもの興味・関心を引きつけられるよう日々教育してほしい。